

農業の事例

事業名【都道府県】

クリーンエネルギーを活用した高付加価値食材生産システム構築事業【岐阜県】

協議会名・参加団体名

下呂方式食材生産施設整備協議会

(社)下呂建設業協会・下呂市・(社)下呂温泉観光協会・下呂温泉旅館協同組合
農業生産法人すがたらいす・南ひだ森林組合・小坂町森林組合・益田調理師会

事業の背景

地域の課題⇒下呂地域の主要産業である観光業と建設業の双方が低迷
観光業の課題⇒観光客誘客のための新たな仕組みづくりが必要
建設業の課題⇒技術・機材・労働力の余剰、新分野への展開が必要

事業の概要

○ワサビを利用した新たな特産物の開発

○ミニ水力発電システムを利用したワサビの栽培施設建設による実証実験

○下呂市内旅館等と連携したニーズ調査等の実施とビジネスモデル設計(コスト分析、栽培技術確立・顧客・事業主体・事業の仕組み等)



事業の課題

- ・地元温泉旅館内での地元産ワサビ利用の定着に時間が要すること
- ・資金の関係上、今後の事業展開をどのように行うか(各種補助金の活用)
- ・ワサビの販路開拓
- ・ミニ水力発電システムならびに栽培用の水を利用するため、水利権の問題、また電気事業法の問題解決が必要



期待される効果

クリーンエネルギーを活用した水耕栽培ビジネスモデルの確立により、地域内就業者の確保や、地域の基幹産業等と連携した新規開発事業開拓の意欲の強化。また、ワサビを利用した新たな特産物・土産品の開発による観光業の活性化を図る。

今後の建設業のビジネス展開

- ・ビジネスモデル確立による本事業の技術を用いた水耕栽培施設の建設事業の創出を目指す。
- ・他地域を視野にいれたビジネスモデルの順次拡大

雇用の状況

雇用者:従業者数1人(平均雇用者数1人/月)

[連絡先] 0576-52-1165

(社)下呂建設業協会 理事兼事務局長 大森 政朗



クリーンエネルギーを活用した高付加価値食材

生産システム構築事業

協議会名：下呂方式食材生産施設整備協議会

○ミニ水力発電システムについて

項目	内容
発電量	最大 1 KWh
設置状態	既存ポンプ室に設置
使用水量状況	最大 7 l/sec
水頭差	落差約 26m
電力供給先	水耕栽培の循環ポンプ・室内空気循環ファン
使用水の処理	露地栽培の水に使用

ミニ水力発電システム	室内栽培ベッド養液循環ポンプ
	

○平成 22 年 4 月末現在の各施設のワサビ栽培状況

①露地施設



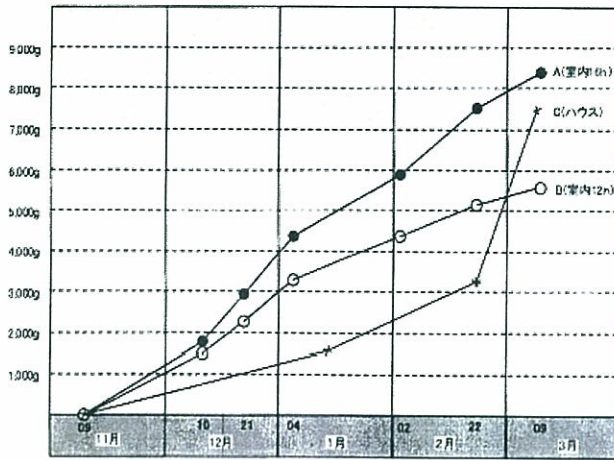
②ビニールハウス施設



③室内施設



○ワサビ葉の採取状況



室内及びビニールハウスで栽培しているワサビについては、ワサビの生育部分へ光をあてるために葉が一定の大きさとなったものを収穫しています。収穫した葉も食材として使用でき、葉を利用したレシピ及び加工品の開発をしております。

採取日	採取量		
	A (室内 16h)	B (室内 12h)	C (ハウス)
平成 21 年 12 月 10 日	1,775 g	1,475 g	
12 月 21 日	1,175 g	805 g	
平成 22 年 1 月 4 日	1,415 g	1,005 g	1,570 g
1 月 15 日			1,570 g
2 月 2 日	1,550 g	1,090 g	
2 月 22 日	1,615 g	800 g	1,685 g
3 月 8 日			4,230 g
3 月 9 日	880 g	405 g	
計	8,410 g	5,580 g	7,485 g

○ワサビ葉を利用した試作品

①ワサビ葉を練りこんだ餅



②ワサビ葉を利用した惣菜



○現在の事業の状況と課題

現在、ワサビの安定供給のための検証、市場価格調査、採算ラインにのるための施設規模の算出等をおこない、事業化へ向けての検討をおこなっている。

現在は協議会全体で取り組みを実施しているが、今後の経営計画をもとに、事業主体の決定及び生産システムの確立が課題である。また事業化のためには、投資額も多大となることが見込まれているため、次年度以降の継続実施には更なる補助金の活用が必須であり、現在、経済産業省をはじめ、各種補助金の獲得に向けて協議会で鋭意検討している。